



Murayama fukyu dayori 普及だより



山形県ベストアグリ賞 山形市農協野菜園芸専門委員会 セルリー部 部長 佐々木弘一氏

セルリー部は、農協とともに「山形セルリー」農業みらい基地創生プロジェクトを立ち上げ、栽培ハウス等79棟の団地を整備し、新規就農者を育成しながら、GI取得、GAP認証などのブランド化に取り組んだことにより、一度は4,000万円まで減少した販売金額が約1億円まで回復。産地の再興を果たしました。



セルリー部
部長 佐々木 弘一氏



やまがたフラワーフェスティバル2022 金賞・農林水産大臣賞 上山市 齋藤道成氏

上山市金谷地区で、栽培を始めて8年目の若手生産者であり、高品質のトルコぎきょうを作り上げることを第一に考え、日々努力を積み重ねております。

また、「山形県トルコぎきょう研究会」の会長を務め、県全体のトルコぎきょう栽培の発展に大きく貢献されています。



受賞作品(トルコぎきょう)▲

「むらやま米フォーラム2023」の開催について

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト村山地域本部では、高品質・良食味米の生産のため、今年の水稲生育の問題点を整理し、令和5年産の栽培管理、近年の気象変動に対応した技術や今後の展望についての研修会を行います。



- ◆日時/令和5年2月2日(木)午後1~3時 ◆場所/山形国際交流プラザ「山形ビッグウイング」大会議室
- ◆内容/基調講演および「つや姫」栽培講習会等 ◆問合せ/電話：023-621-8294 (岡本・遠藤)

「東北農林専門職大学(仮称)」 令和6年4月開学に向けて設置認可申請中!

県では、将来の日本をけん引する農林業経営者を養成するため、「東北農林専門職大学(仮称)」の開学準備を進めています。農業・森林業の生産や経営、加工、販売等の知識と理論に裏付けられた技術を、講義だけでなく、県内外の先進経営体での長期実習など豊富な実習で学べる新しいタイプの大学です。県立農林大学校(新庄市)の敷地に校舎を新築中で、現在の高校2年生が第1期生となります。詳しくはQRコードからご覧ください。

問合せ 山形県専門職大学整備推進室 ☎023-630-2480



新校舎の外観イメージ



[ホームページ]

◎冬季間の営農上の留意事項

(1) 燃油価格高騰対策

今冬も燃油価格高騰が続いています。冬季にビニールハウス等の施設で作物を栽培する場合は、省エネルギー対策を実施し、コスト低減に努めましょう。

詳しくは [山形県施設園芸省エネルギー化技術指針](#) [検索](#)

(2) 雪害防止対策

～今冬は厳冬をもたらすとされるラニーニャ現象が発生しています～

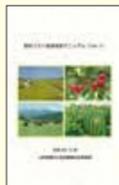
毎年のように、大雪による果樹の枝折れや施設の損壊等、大きな被害を受けています。大雪等による被害防止のため、早めの対策を行いましょ。

詳しくは [山形県雪対策ハンドブック](#) [検索](#)

◎肥料代の節約のすすめ

肥料原料の価格が上昇し、それに伴い、肥料価格も値上がりしています。土壌診断、肥料や施肥法の変更で、肥料代の節約に努めましょう。

詳しくは [山形県肥料コスト低減技術マニュアル](#) [検索](#)



[ホームページ]

果樹王国やまがたを支える皆様へ

凍霜害・開花期の低温・降ひょう・集中豪雨・台風・豪雪など、近年の異常気象による想定外の自然災害に備えて、果樹共済への加入をお勧めしています。また、園芸施設共済は、小さな損害でも補償対象とする特約や、再建に役立つ、よりワイドな補償の選択が可能となっています。この機会にぜひご加入ください。

問合せ 山形県農業共済組合本所園芸部 ☎023-656-8978



やまがたアグリネット

<https://agrin.jp/>

- ・山形県が運営する農業情報サイト
- ・スマートフォンでも見やすくなりました



[ホームページ]



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

令和5年本格デビュー！期待の新品種『やまがた紅王』

～4L以上で着色の良い果実を厳選したプレミアム規格も本年デビュー～



結実確保講習会



目揃え会



剪定講習会

産地の熱意を届けよう！
普及推進主幹 一戸 每子

明けましておめでとうございます。皆様、清々しい新年をお迎えのことと思います。

最近、SNSを見ていて気持ちよく、掴まれた言葉がありました。「成功する会社は自社製品をとっても愛している情熱がすごい」。愛しているからより良くしようとする努力する、といった内容でした。

山形のさくらんぼも同じだと思います。冬の剪定作業から始まり、春の(霜と闘いながら)結実確保対策、続く着果、着色管理を経て果実の出荷に至るまで、それら全てが生産者一人一人の地道な努力、栽培への熱意に支えられている、ここは正にそんな胸アツな産地なのです。

令和5年は『やまがた紅王』が本格デビューを迎える、勝負の年です。普及課でも関係機関とともに支援してまいります。皆様のさくらんぼ愛を注いで、鮮やかな大玉最高品質の『やまがた紅王』を全国に届けましょう！

令和4年度の普及活動

令和4年の特徴的な天候

4月:(30日)積雪 6月:(3,12日)降雹(上旬)低温(下旬)高温 8月:(月間)少日照(上旬)大雨

作物 衛星画像を活用した 水稻栽培管理の支援

地域の中核経営体への農地集積が進み、経営規模が拡大する中、衛星画像を活用して水稻の生育量や刈取り適期などを効率的に把握するスマート農業技術が開発されています。そうした高度な技術の現場経営体への導入をサポートし、産米の高品質・平準化を推進しています。



衛星画像による「つや姫」の生育診断の様子

野菜 伝統あるセルリー産地 での新たな取組

J A山形市では平成27年から大規模園芸団地の整備を行い、新たな担い手の確保に取り組んできました。こうした中で、栽培技術についても新しい視点で見直しを図っており、普及課では村山産地研究室(園芸研)と連携して、実証圃を設置しながら検討を進めています。



村山産地研究室での圃場検討会

畜産 水田を活用した 地域内の飼料作物生産支援

地域内耕畜連携による水田を活用した飼料作物生産として飼料用米、稲WC S*などがあり、飼料価格高騰下でその重要性が増えています。最近では、新たに「子実とうもろこし」が省力管理等の利点がある作物として注目されています。当課では、東南村山地域で初めての栽培事例である天童市内の「子実とうもろこし」生産を支援しています。



※ホールクロップサイレージ 収穫の様子 子実とうもろこし

経営・担い手 多様な担い手の 育成支援

農業を取り巻く困難な環境に打ち勝ち、経営発展して行くためには経営力の向上が必要です。研修会や個別相談を行い、経営の課題抽出から戦略策定・実践まで経営発展に向けた取組を支援しています。また、新規就農者の経営の早期確立に向け、新規就農者向け講座(ステップアップ塾)を開催し、技術習得を支援しています。



専門家との個別相談

果樹 『やまがた紅王』の 高品質安定生産の推進

令和5年、さくらんぼ新品種『やまがた紅王』が本格販売を迎え、4L以上で着色の良い果実を厳選したプレミアム規格もあわせてデビューします!当課では、引き続き3L以上の大玉生産技術の普及推進を行うとともに、安定生産に向けた防霜・結実対策の徹底に取り組んでまいります。『やまがた紅王』着果・着色管理講習会



『やまがた紅王』着果・着色管理講習会

花き 露地花き品目の生産性 向上による産地強化

露地花き品目は多くありますが、今年度はダリアの枯死対策や草花・花木に発生するホコリダニ類の発生時期の把握・防除、また、「啓翁桜」の環状剥皮処理の適期把握等に取り組まれました。令和5年度は、これらの取組で得られた知見をもとに、生産性がさらに向上するよう支援していきます。



花木部会巡回(あじさいの出荷時期等の確認)

農村資源活用 農産加工品の販売力 強化に向けて

近年、消費者にとって身近な情報源となっているSNSの効果的な活用方法と、販売拡大につながる運用のポイントを学ぶ研修会を開催しました。農産加工品の販売拡大に向けて、消費者ニーズに対応した新たな販売方法の導入や販路開拓を支援しています。



SNSを活用した販路拡大セミナー

村山産地研究室(園芸研) ミニセルリー「若竹」の 安定生産技術を開発中

ミニセルリー「若竹」は、品質や収量の個人差が大きいことが課題となっています。そこで当室では安定生産を図るため、マルチ内灌水および全量基肥施用による高品質多収技術を明らかにしました。現在、産地と連携しながら、栽植様式や定植時期の技術開発に取り組んでいます。ミニセルリー「若竹」の栽植様式による生育の違い



株間25cm 株間22.5cm 株間20cm

東南村山農業士会 活動紹介

東南村山農業士会(北澤和弘会長、令和4年度指導農業士22名、青年農業士28名)は、東南村山地域の農業士*で組織される団体で、自主的な研鑽活動(研究会等)や地域の若手農業者の育成等を目的に活動を行っています。

小学生の田植え・稲刈り体験等の食育活動や女性農業士研修会・青年農業士会研修等の実施、東北・北海道地域農業士研究会への参加など意欲的に事業を行い、資質向上や地域農業への貢献に取り組んでいます。

*農業士…県から認定を受けた地域貢献等が期待される農業者



田植え体験学習の様子



女性農業士研修の様子

山形農業青年連絡協議会(山形4Hクラブ) 活動紹介

東南村山地域の若手農業者で構成される当協議会は、月1回の定例会や圃場研修、県外研修、直売活動、プロジェクト活動等で、技術向上や消費者との交流を図っています。

11月に開催された東北農村青年会議秋田大会では、会員が山形県代表として発表するとともに、東北地域の若手農業者と交流し、多くの刺激を受けてきました。今後も地域の垣根を越えた研修や交流会に力を入れていきます。



東北農村青年会議秋田大会への参加



4H会員の直売活動の様子

農薬の正しい使い方を再点検! ~消費者の産地への信頼を失わないために~

農薬を使用する際は、農薬のラベルを使用前に必ず確認し、使用基準を守るとともに、ドリフト対策や使用後の散布器具の洗浄を徹底しましょう。

「やまがた GAP」第三者認証制度がスタート!

令和4年4月から「山形県版GAP」が「やまがたGAP」に移行しました。「やまがたGAP」では県版GAPで定めていた食品安全、環境保全、労働安全に人権保護と農場経営管理の項目が追加されました。農業経営管理のツールとして取り組んでみてはいかがでしょうか。

